

令和7年度

大田原市教育委員会

点検評価報告書

大田原市教育委員会

はじめに

大田原市教育委員会は、教育行政基本方針において「おおたわら国造りプラン」の基本事業に基づく重点施策・重点目標等を掲げ、各種事務事業を執行しています。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、大田原市議会に提出するとともに、市ホームページにおいて公表しています。

当教育委員会は、この報告書を基にして、市民の皆様に対する説明責任を果たし、今後の事務事業執行の改善を図り、家庭、地域と教育委員会が一体となった望ましい教育環境づくりに努めてまいりたいと考えています。

令和7年11月

大田原市教育委員会

目 次

| | | |
|----|---------------------|----|
| I | 点検及び評価について | 1 |
| 1 | 目的 | |
| 2 | 点検・評価の対象 | |
| 3 | 点検・評価の方法 | |
| 4 | 点検・評価の構成 | |
| 5 | 点検・評価の公表 | |
| II | 事務事業執行状況の点検及び評価 | 3 |
| 1 | 教育環境の整備・充実 | |
| | 小中学校トイレ洋式化改修事業 | 4 |
| 2 | 教育活動の充実 | |
| | 中学校部活動指導員配置事業 | 6 |
| 3 | 生涯学習活動の支援 | |
| | ふれあい生涯学習フェスティバル開催事業 | 8 |
| 4 | スポーツ施設の管理と活用 | |
| | 屋内温水プール管理事業 | 10 |
| | 資料編 実施状況・写真等 | 12 |

I 点検及び評価について

1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正（平成19年6月27日公布）」に伴い、教育委員会は平成20年4月1日から毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することが義務付けられました。

本市教育委員会は、法改正の趣旨に則り、主要な施策や事務事業の取り組みについて点検及び評価を行い、課題や取り組みの方向性を明らかにすることにより、教育行政を効率的に進めるとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

2 点検・評価の対象

「おおたわら国造りプラン」の基本事業に基づき令和6年度に実施した主要施策を対象とします。

3 点検・評価の方法

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関して識見を有する方からご意見をいただく評価委員会を設置し、全3回の日程で点検・評価を行います。

第1回委員会では対象事業の説明及び質疑、第2回委員会では現地視察、第3回委員会では委員意見の取りまとめを実施しました。

ご意見については、本報告書に掲載するとともに、今後の教育施策に反映します。

なお、評価委員会の委員は、次のとおりです。

- | |
|---------------------|
| ○堀内直美氏（元小・中学校長） |
| ○平久江徳昭氏（市区長連絡協議会会長） |
| ○吉成絹子氏（元市職員） |

（評価委員会開催日）

第1回 令和7年10月10日（金）

第2回 令和7年10月20日（月）

第3回 令和7年10月28日（火）

4 点検・評価の構成

(1) 事務事業の基本的事項

おおたわら国造りプランの基本事業や教育行政基本方針の重点施策、重点項目に即した施策・事業ごとに点検評価を行いました。

(2) 事務事業の目的・内容

主な施策や事業名を掲げています。(評価調書参照)

(3) 実施目標と実績

令和6年度に実施した事業内容、実施状況や課題を示しています。

(4) 事務事業の評価

- ① 担当課による評価と課題の抽出
- ② 評価委員の事業に対する意見
- ③ 今後の事業の方向性

5 点検・評価の公表

市民への説明責任を果たすため、本報告書を議会へ提出するとともに、市ホームページへ掲載いたします。

II 事務事業執行状況の点検及び評価

令和7年度実施（令和6年度分）評価対象事務事業一覧表

| 番号 | 項目 | 担当課 | 国造りプランの位置づけ |
|----|---------------------|---------|-------------------------|
| 1 | 小中学校トイレ洋式化改修事業 | 教育総務課 | 2-12-40 教育環境の整備・充実 |
| 2 | 中学校部活動指導員配置事業 | 学校教育課 | 2-12-38 教育活動の充実 |
| 3 | ふれあい生涯学習フェスティバル開催事業 | 生涯学習課 | 2-11-34 生涯学習活動の支援 |
| 4 | 屋内温水プール管理事業 | スポーツ振興課 | 2-14-49 スポーツ施設の管理と活用 |

4 事務事業の評価

| 評価項目 | | 評価 | 評価基準 | 評価に対するコメント |
|-----------|---|---|---|--|
| 必要性 | 市が担うべき事業か | A | A 市が全面的に担うべき事業である B 市が部分的に担う事業である C あまり市が担うべき事業とは言えないため、今後は民間・国・県の関与を拡大すべき事業である D 市が実施すべき事業でない | 学校施設の整備及び管理は市が責任を持って行う事業であり、市が全面的に担うべき事業である。 |
| 妥当性 | 活動手段は適正か | A | A 活動手段は適正である B 活動手段はおおむね適正であるが、改善の余地がある C 活動手段があまり適切ではない D 活動手段が不適切である | 和式トイレを敬遠し、洋式トイレに行列ができることもあることから、トイレの洋式化は必須であり、活動手段は適正である。 また、非常時などは屋内運動場が避難場所として使用されることから、屋内運動場のトイレの洋式化は急務であり、活動手段は適正である。 |
| 効率性 | 手法が効率的か | A | A 効率的である B おおむね効率的だが、改善の余地がある C あまり効率的ではない D 効率的ではないため、早急に手法を見直す必要がある | トイレの洋式化は各学校のトイレ数や児童生徒数などを勘案して年次計画を作成して実施している。 また、トイレ洋式化改修工事は適切な方法で発注されており、手法は効率的である。 |
| 費用対効果 | 事業費、物件費、人件費を勘案してどうか | A | A 適当である B 適当に近くはあるが、まだ改善できる余地がある C あまり適当とは言えず、大いに改善の余地がある D 適当からは遠く、根本から考え直す必要がある | 現場に合わせてトイレ洋式化の工法などを検討してコスト削減を図っており、事業費は適当である。 |
| 目標達成度 | 事業の成果は上がっているか | A | A 目標通りである B 目標には達していないが、それに近いかたちで推移している C 目標達成が厳しい状況にあり、何か手段を講じる必要がある D このままでは目標達成は困難である | 作成した年次計画のとおり実施しており、目標に達している。 |
| 担当課評価結果 | | <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 / <input type="checkbox"/> 修正継続事業 / <input type="checkbox"/> 見直し事業 / <input type="checkbox"/> 廃止事業 | | |
| 評価・課題 | <p>■評価 洋式化されたトイレは、使いやすく衛生的で安全・安心なもので多様化する教育環境にも対応が図られている。 トイレの洋式化は教育環境の整備及び充実を図るだけではなく、避難所としての整備及び充実を図るうえでも欠かせない事業の一つである。</p> <p>■課題 個人宅及び公共の場でもトイレの洋式化が進んでいることから、児童の中には和式トイレの使用方法が分からない児童もあり、トイレ内に和式トイレの使用方法を掲示する学校もある。限られた予算の中で計画的にトイレの洋式化を行っているが、更なるトイレの洋式化を推進する必要がある。 世界情勢等の影響から資機材費や人件費が高騰しており、今後の事業費は増大する恐れがある。</p> | | | |
| 評価委員意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・改修工事にあわせて電気工事を行い温水洗浄機能、暖房便座も設置することで、児童生徒のみならず避難所として利用する市民、とりわけ高齢者にも配慮されている。より費用はかかるが現行計画のまま進めていただきたい。 ・現状に即した計画を維持し、費用対効果に合わせた事業実施を継続していただきたい。 | | | |
| 今後の事業の方向性 | <input type="checkbox"/> : ①有効性改善 (成果↑コスト↑) <input checked="" type="checkbox"/> : ②現状維持 (成果→コスト→) <input type="checkbox"/> : ③生産性改善 (成果↑コスト→) <input type="checkbox"/> : ④効率性改善 (成果→コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑤協働化・民営化 (成果↑コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑥段階的撤退 (成果↓コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑦休止・廃止 | | | |

令和7年度 大田原市教育委員会事務事業点検評価調査

| | | | | |
|------------------|--|-------|--------------------------|---|
| 1 事務事業の基本的事項 | | | 事業番号 | 2 |
| 事務事業名 | 中学校部活動指導員配置事業 | 担当課・係 | 学校教育課・学校教育係 | |
| おおたわら国造りプランの位置づけ | 基本政策 | 2 | 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり | |
| | 施策 | (12) | 生きる力を育む学校教育の推進 | |
| | 基本事業 | 38 | 教育活動の充実 | |
| 制度区分 | <input checked="" type="checkbox"/> ：補助（国・県） <input type="checkbox"/> ：市単独 <input type="checkbox"/> ：その他（ ） | | | |

2 事務事業の目的・内容

| | | | | | | | |
|----------------|---|-----|-----|-----|-----|-------|----|
| 目的 | 大田原市立中学校の部活動において、専門的な知識・技能を有する「部活動指導員」を配置することにより、部活動の充実、活性化及び教職員の負担軽減を図る。 | | | | | | |
| 対象者 | 市内生徒及び中学校教職員 | | | | | | |
| 事業内容 | 部活動指導員の配置を希望する中学校部活動に、指導者にふさわしい人材を教育委員会及び管理者が面談等により選考し、部活動指導員として適正に配置する。 | | | | | | |
| 事業費 (単位：千円) | 年度 項目 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 備考 |
| | 予算額 (決算ベース) | | | | | 1,737 | |
| | 決算額 | | | | | 1,737 | |

3 実施目標と実績

| 目標とする項目 | 区分 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 結果のコメント |
|--------------------------|------------|-----|-----|------|--|
| 部活動指導員の配置数 | 目標値 (人) | | | 8 | 年度途中から実施したため、予定人数の確保には至らなかったが、配置を希望する部活動にはすべて配置できた。 |
| | 実績 (人) | | | 6 | |
| | 達成率 (%) | | | 75.0 | |
| 部活動全体にみる部活動指導員配置済み部活動の割合 | 目標値 (%) | | | 11.7 | 配置割合は9%にとどまったものの、年度途中からの実施にも関わらず希望あった部活動には対応できたことは一定の成果といえる。 |
| | 実績 (%) | | | 9.0 | |
| | 達成率 (%) | | | 75.0 | |
| | 目標値 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| | 達成率 (%) | | | | |

4 事務事業の評価

| 評価項目 | | 評価 | 評価基準 | 評価に対するコメント |
|-----------|--|---|---|--|
| 必要性 | 市が担うべき事業か | B | A 市が全面的に担うべき事業である B 市が部分的に担う事業である C あまり市が担うべき事業とは言えないため、今後は民間・国・県の関与を拡大すべき事業である D 市が実施すべき事業でない | 部活動指導員の配置、教職員の負担軽減を目的としているため、県と連携して行うべき事業である。 |
| 妥当性 | 活動手段は適正か | A | A 活動手段は適正である B 活動手段はおおむね適正であるが、改善の余地がある C 活動手段があまり適切ではない D 活動手段が不適切である | 教員だけでは難しい専門的な技術や知識を生徒に指導することが可能となり、技術向上、種目への深い理解、安全な活動につなげることができるため、適正な手段である。 |
| 効率性 | 手法が効率的か | B | A 効率的である B おおむね効率的だが、改善の余地がある C あまり効率的ではない D 効率的ではないため、早急に手法を見直す必要がある | 部活動指導員の確保については、現に部活動に携わっている地域の協力者に依頼するなどしているが、担い手が見つからない現状であるため、他に手法がないか検討する必要がある。 |
| 費用対効果 | 事業費、物件費、人件費を勘案してどうか | B | A 適当である B 適当に近くはあるが、まだ改善できる余地がある C あまり適当とは言えず、大いに改善の余地がある D 適当からは遠く、根本から考え直す必要がある | 部活動指導員の報酬については、県の基準額を満たしているため適当であると考えるが、遠征費などの旅費については今後検討する必要がある。 |
| 目標達成度 | 事業の成果は上がっているか | B | A 目標通りである B 目標には達していないが、それに近い状態で推移している C 目標達成が厳しい状況にあり、何か手段を講じる必要がある D このままでは目標達成は困難である | 部活動指導員の要望のある学校にはおおむね配置できている。今後は生徒の希望する部活動についても充実できるように検討していく必要がある。 |
| 担当課評価結果 | | <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 / <input type="checkbox"/> 修正継続事業 / <input type="checkbox"/> 見直し事業 / <input type="checkbox"/> 廃止事業 | | |
| 評価・課題 | <p>■評価 地域や学校の実情により、ニーズや進捗は様々であるが、年度目標の設定、各方面への進捗報告や聴取なども行い、着実に対応できている。</p> <p>■課題 学校からのニーズはあるが、指導員が見つからず配置できていないケースがある。 地域移行については、部員の確保を考えると単独校での地域移行が難しい場合が多いため、複数校で同時に進める必要がある。また、地域移行した場合に活動場所を考える必要がある。公共施設の減免や優先使用などの検討も必要になっている。</p> | | | |
| 評価委員意見 | <p>・指導者について、有資格者、適任者が少ない中ではあるが、人材を見極めながら着実に目標達成に近づくよう計画を進めていただきたい。</p> <p>・今後学校部活動のニーズは減少していく。これまで2校での合同チームはあったが、今では3校以上の合同チームもあり、合同チームが全国大会に出場する例もある。また現在学校部活動の大会であっても競技によってはクラブチームでの参加が可能になるなど部活動を取り巻く環境は急速に変化している。地域の動向を見極めながら計画を進めていただきたい。</p> | | | |
| 今後の事業の方向性 | <p><input type="checkbox"/> : ①有効性改善 (成果↑コスト↑)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> : ②現状維持 (成果→コスト→)</p> <p><input type="checkbox"/> : ③生産性改善 (成果↑コスト→)</p> <p><input type="checkbox"/> : ④効率性改善 (成果→コスト↓)</p> <p><input type="checkbox"/> : ⑤協働化・民営化 (成果↑コスト↓)</p> <p><input type="checkbox"/> : ⑥段階的撤退 (成果↓コスト↓)</p> <p><input type="checkbox"/> : ⑦休止・廃止</p> | | | |

令和7年度 大田原市教育委員会事務事業点検評価調書

| | | | | |
|------------------|--|-------|------------|---|
| 1 事務事業の基本的事項 | | | 事業番号 | 3 |
| 事務事業名 | ふれあい生涯学習フェスティバル開催事業 | 担当課・係 | 生涯学習課生涯学習係 | |
| おおたわら国造りプランの位置づけ | 基本政策 2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり | | | |
| | 施策 (11) 生涯学習社会づくりの推進 | | | |
| | 基本事業 34 生涯学習活動の支援 | | | |
| 制度区分 | <input type="checkbox"/> : 補助 (国・県) <input checked="" type="checkbox"/> : 市単独 <input type="checkbox"/> : その他 () | | | |

2 事務事業の目的・内容

| | | | | | | | |
|----------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|---------------------|
| 目的 | 生涯学習を広く一般に啓発し、地域住民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、生涯学習活動への参加を促進し、生涯学習の一層の振興を図る | | | | | | |
| 対象者 | 生涯学習活動やボランティアなどの市民活動を行っている団体等 | | | | | | |
| 事業内容 | 「学ぶ楽しさ つながる人と人」をテーマとし、市内で活動している生涯学習団体の作品や活動内容の展示、ワークショップ、ステージ発表等を行う。 | | | | | | |
| 事業費 (単位：千円) | 年度 項目 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 備考 |
| | 予算額 (決算ベース) | 160 | 169 | 169 | 235 | 244 | |
| | 決算額 | 3 | 3 | 0 | 120 | 152 | R2～R4はコロナ禍のためイベント休止 |

3 実施目標と実績

| 目標とする項目 | 区分 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 結果のコメント |
|---------|--------------------|-----|-----|-------|--|
| 出展団体数 | 目標値 ※(前年度出展団体数) | 0 | 0 | 22 | 主に生涯学習センターに利用登録している団体を中心に、市内で活動する生涯学習団体の活動の発表の場としてもらうよう出展団体を募集した結果、30団体の参加があった。ステージ発表では8団体が参加し、開会から閉会まで観覧者が絶えることがなかった。 |
| | 実績 (出展団体数) | 0 | 22 | 30 | |
| | 達成率 (%) | | | 136.4 | |
| 参加者数 | 目標値 ※(前年度参加者数) | 0 | 0 | 350 | バルーンアートができる方に出展していただき、親子での参加がしやすい環境づくりに努め、前年度と同様の参加者があった。 |
| | 実績 (参加者数) | 0 | 350 | 350 | |
| | 達成率 (%) | | | 100.0 | |
| | 目標値 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| | 達成率 (%) | | | | |

4 事務事業の評価

| 評価項目 | | 評価 | 評価基準 | 評価に対するコメント |
|-----------|--|---|---|---|
| 必要性 | 市が担うべき事業か | A | A 市が全面的に担うべき事業である B 市が部分的に担う事業である C あまり市が担うべき事業とは言えないため、今後は民間・国・県の関与を拡大すべき事業である D 市が実施すべき事業でない | 市内で活動する生涯学習団体の活動の発表の場の提供は、地域の活性化と生涯学習活動の活性化につながることから、市が行うべきと考える。 |
| 妥当性 | 活動手段は適正か | A | A 活動手段は適正である B 活動手段はおおむね適正であるが、改善の余地がある C 活動手段があまり適切ではない D 活動手段が不適切である | 令和元年度まで行っていた生涯学習フォーラムを令和5年度からふれあい生涯学習フェスティバルへ名称変更し、基調講演中心の事業から、各生涯学習団体の活動成果の発表を重視した内容にしたことで生涯学習団体の参加がしやすくなったため、有効的と考える。 |
| 効率性 | 手法が効率的か | A | A 効率的である B おおむね効率的だが、改善の余地がある C あまり効率的ではない D 効率的ではないため、早急に手法を見直す必要がある | 作品展示、ワークショップ、ステージ発表等様々な活動の発表の場を提供することで、生涯学習への関心や意欲を高める効果があると考え。 |
| 費用対効果 | 事業費、物件費、人件費を勘案してどうか | A | A 適当である B 適当に近くはあるが、まだ改善できる余地がある C あまり適当とは言えず、大いに改善の余地がある D 適当からは遠く、根本から考え直す必要がある | 企画運営委員会の委員は各地区生涯学習推進協議会からの推薦者で構成されており、ボランティアでの協力をお願いしていることから、費用負担は最低限のものとなっており、費用対効果があると考え。 |
| 目標達成度 | 事業の成果は上がっているか | A | A 目標通りである B 目標には達していないが、それに近いかたちで推移している C 目標達成が厳しい状況にあり、何か手段を講じる必要がある D このままでは目標達成は困難である | 出展団体数が目標を上回る成果が得られたことから、活動発表の場の提供は参加する生涯学習団体の満足度が高く、今後の更なる参加者増や活動の継続につながるものと考え。 |
| 担当課評価結果 | | <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 / <input type="checkbox"/> 修正継続事業 / <input type="checkbox"/> 見直し事業 / <input type="checkbox"/> 廃止事業 | | |
| 評価・課題 | <p>令和5年度から団体発表を重視した内容としたほか、バルーンアートや作品展示など誰でも参加しやすい内容を盛り込むなど見直しを図ったことで出展団体数及び参加者数が増加した。 生涯学習の啓発や生涯学習の振興を図るため、今後も継続して実施していきたい。</p> | | | |
| 評価委員意見 | <p>・地域住民が参加できる現在の形式になるまでの創意工夫を評価する。今後も工夫を続けながら実施していただきたい。 ・発表の場や方法はほかにも公民館祭りなどがあるが、市生涯学習推進の母体として生涯学習センターの実施事業を継続し、地域や団体の特色ある活動の育成、つながりや生きがいの創出に努めていただきたい。</p> | | | |
| 今後の事業の方向性 | <p> <input type="checkbox"/> : ①有効性改善 (成果↑コスト↑) <input checked="" type="checkbox"/> : ②現状維持 (成果→コスト→) <input type="checkbox"/> : ③生産性改善 (成果↑コスト→) <input type="checkbox"/> : ④効率性改善 (成果→コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑤協働化・民営化 (成果↑コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑥段階的撤退 (成果↓コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑦休止・廃止 </p> | | | |

令和7年度 大田原市教育委員会事務事業点検評価調査書

| | | | | |
|------------------|--|-------|--------------------------|---|
| 1 事務事業の基本的事項 | | | 事業番号 | 4 |
| 事務事業名 | 屋内温水プール管理事業 | 担当課・係 | スポーツ振興課・管理係 | |
| おおたわら国造りプランの位置づけ | 基本政策 | 2 | 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり | |
| | 施策 | (14) | スポーツ・レクリエーションの振興 | |
| | 基本事業 | 49 | スポーツ施設の管理と活用 | |
| 制度区分 | <input type="checkbox"/> ：補助（国・県） <input checked="" type="checkbox"/> ：市単独 <input type="checkbox"/> ：その他（ ） | | | |

2 事務事業の目的・内容

| | | | | | | | |
|----------------|---|--------|--------|--------|--------|---------|--|
| 目的 | 市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。施設の適切な維持管理により、利用者が安心して利用できる環境づくりを行う。 | | | | | | |
| 対象者 | 市内外に住む老若男女の利用者 | | | | | | |
| 事業内容 | 令和7年4月1日から5年間、指定管理者として契約を締結した(株)フクシ・エンタープライズに、施設の管理運営業務を委託する。基本協定書のリスク分担における50万円を超える修繕等は、年次計画を立て市が行う。利用者が安全・快適に利用できるよう、県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務においての知識とノウハウを持ち合わせている(株)フクシ・エンタープライズと密に連携を取りながら事業を行う。 | | | | | | |
| 事業費 (単位：千円) | 年度 項目 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 備考 |
| | 予算額 | 65,420 | 68,455 | 66,942 | 78,804 | 100,372 | 当初+補正 ※R5は4,807千円の繰越あり ※R6は25,000千円の繰越あり |
| | 決算額 | 65,139 | 68,270 | 66,741 | 73,484 | 79,495 | |

3 実施目標と実績

| 目標とする項目 | 区分 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 結果のコメント |
|-------------------|-----------------|--------|--------|--------|---|
| 施設の長寿命化に向けた維持修繕工事 | 目標値/予算 ※(千円) | 2,112 | 7,788 | 16,687 | 老朽化したポンプの交換や屋根の修繕工事を実施する事で施設の長寿命化が図られた。 |
| | 実績/決算 (千円) | 2,112 | 7,788 | 16,687 | |
| | 達成率 (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| 施設利用者数の増加 | 目標値 (人) | 50,000 | 50,000 | 52,000 | 指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズと協力して利用者数の増加を図るため、イベントや講座開講の充実も検討していきたい。 |
| | 実績 (人) | 30,801 | 34,504 | 35,842 | |
| | 達成率 (%) | 61.6 | 69.0 | 68.9 | |
| | 目標値 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| | 達成率 (%) | | | | |

4 事務事業の評価

| 評価項目 | | 評価 | 評価基準 | 評価に対するコメント |
|-----------|---|---|---|--|
| 必要性 | 市が担うべき事業か | A | A 市が全面的に担うべき事業である B 市が部分的に担う事業である C あまり市が担うべき事業とは言えないため、今後は民間・国・県の関与を拡大すべき事業である D 市が実施すべき事業でない | 一年を通して利用が可能な温水プールは、夏の遊技場としての利用をはじめ、リハビリや健康の維持増進の役割を兼ね備えた重要な施設となっている。老朽化した小中学校のプールの修繕が困難な場合の受け皿として授業で利用している学校もあり、今後も施設の重要性が増していくと考えられる。 |
| 妥当性 | 活動手段は適正か | A | A 活動手段は適正である B 活動手段はおおむね適正であるが、改善の余地がある C 活動手段があまり適切ではない D 活動手段が不適切である | 令和7年4月から令和12年3月までの5年間、(株)フクシ・エンタープライズと指定管理者契約を締結し運営している。県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務についての知識とノウハウを持ち合っていることから、利用者とトラブルなく良好な運営を行っている。 |
| 効率性 | 手法が効率的か | A | A 効率的である B おおむね効率的だが、改善の余地がある C あまり効率的ではない D 効率的ではないため、早急に手法を見直す必要がある | 指定管理制度により運営を全面的に委託しており、市としては修繕工事等に注力できるため高効率な手法と考えられる。 |
| 費用対効果 | 事業費、物件費、人件費を勘案してどうか | B | A 適当である B 適当に近くはあるが、まだ改善できる余地がある C あまり適当とは言えず、大いに改善の余地がある D 適当からは遠く、根本から考え直す必要がある | 物価高の影響で運営に関する経費も増加傾向にある。利用料金についても65歳以上のシニア利用者が多く(高齢者割引100円)、収入増が見込めないため、料金の見直しも必要であると考えられる。 |
| 目標達成度 | 事業の成果は上がっているか | B | A 目標通りである B 目標には達していないが、それに近いかたちで推移している C 目標達成が厳しい状況にあり、何か手段を講じる必要がある D このままでは目標達成は困難である | 老朽化したポンプの交換や屋根の修繕工事を実施する事で施設の長寿命化が図られた。施設利用者の増加に関しては、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズと協力して、イベントや講座を実施していく。 |
| 担当課評価結果 | | <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 / <input type="checkbox"/> 修正継続事業 / <input type="checkbox"/> 見直し事業 / <input type="checkbox"/> 廃止事業 | | |
| 評価・課題 | <p>■評価 財政状況が厳しい中ではあったが、長年の懸案であった屋根の修繕工事が実施出来た事で、安心して温水プールを利用できる環境を整える事ができた。</p> <p>■課題 施設利用者の増加を図るには、安全安心な施設である事が前提であり、そのためには日頃の保守点検が必要不可欠である。(株)フクシエンタープライズと協議し、計画的に修繕工事を実施していくことで、施設の長寿命化を図る。 施設利用者の増加に関する目標については、隣町に同様の施設が開業した事から、コロナ禍以前の水準に戻すのは困難な状況である。令和7年度からは前年度利用者数の10%増を目標とし達成を目指していく。</p> | | | |
| 評価委員意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料(収入)と運営費(支出)のバランスについて、適正な運用となるよう検討しつつ進めていただきたい。指定管理制度は、市直営より管理者の自主的な収益活動を促すのでよい方法といえる。 ・ 夏休み期間中であっても子どもより高齢者の利用が多いと感じる。夏休みの過ごし場所の一つとして有効なので、プール利用促進の広報活動を行ってはいかがか。 ・ 他市町では夏季料金や回数券制度などを設定している例もある。市民のニーズも見極めながら利用料の見直しも検討されたい。 ・ 老朽化や気温の上昇に伴い一部学校のプール利用が廃止あるいは縮小されたほか、美原公園のプールも廃止された。これらの施設の維持管理費を若草及び黒羽の温水プールの事業に活用できるとよいのではないか。 | | | |
| 今後の事業の方向性 | <input type="checkbox"/> : ①有効性改善 (成果↑コスト↑) <input checked="" type="checkbox"/> : ②現状維持 (成果→コスト→) <input type="checkbox"/> : ③生産性改善 (成果↑コスト→) <input type="checkbox"/> : ④効率性改善 (成果→コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑤協働化・民営化 (成果↑コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑥段階的撤退 (成果↓コスト↓) <input type="checkbox"/> : ⑦休止・廃止 | | | |



市野沢小学校
教室棟トイレ洋式化についての説明



市野沢小学校
体育館トイレ



屋内温水プール
改修した屋根についての説明



屋内温水プール
改修したボイラー室についての説明

